

薬の伝言板 ~小児の夏風邪~



No.249 2018年8月

丸子中央病院 薬局

夏風邪とは、単純に夏に引く風邪というだけではありません。夏に活発なウイルスによる感染症であり、40℃近い高熱が出たり発疹や目の症状を訴えたりすることもあります。

今回は夏風邪の中でも、特に子供の間で流行しやすい「プール熱」「ヘルパンギーナ」「手足口病」の3疾患についてお話しします。



◆プール熱とは

プール熱はアデノウイルスが目に直接侵入することで感染します。突然の40℃近い高熱で発症し、目の痛みや充血、喉の痛みなどを訴え、熱は3-5日間持続します。プールの始まる時期に流行することから、プール熱と呼ばれています。



◆ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナはエンテロウイルス属のウイルスが咳やくしゃみによる飛沫等によって体内に侵入することで感染します。40℃近い高熱とのどに水疱ができるのが特徴です。その水疱がつぶれることで喉に強い痛みが発生します。熱は2-3日持続します。



◆手足口病とは

手足口病はヘルパンギーナと同じくエンテロウイルスやコクサッキーウイルスが飛沫、接触等で体内に侵入することで感染します。他の二つと異なり発熱は軽度のことが多いですが、時には高熱が出る場合もあります。水疱のある発疹が手足やおしり等に出現し、さらに口の中にも赤い発疹が出来て痛むこともあります。



◆家庭内で出来る対応は？

子供が口の中や喉の痛みによって飲んだり食べたりすることを嫌がることのあることがあるため脱水症状に注意が必要です。家庭内では下記のポイントに注意しましょう。

- ◆ スープやゼリーなどの食べやすいものを選びましょう
- ◆ 室内の温度管理をし、快適な部屋で寝かせましょう
- ◆ 高熱の時は入浴を控えますが、37℃程度まで下がれば短時間の入浴やシャワーは大丈夫です
- ◆ 家族への感染予防のため手洗いとうがいをしましょう
- ◆ トイレや洗面所でのタオルの共有は避けましょう

◆病院で治療すれば治るの？



残念ながらこれらの病気に対する特効薬はありません。症状を和らげることを目的とする対症療法にて治療を行います。当院では種々の症状に対して下記のような対応を行います。



[発熱]

汗を拭いたり、身体を冷ますクーリングで対応します。高熱の場合は小児用解熱鎮痛剤を使用することもあります。



[口腔内の水疱やその痛み]

基本は水うがいで対応しますが、場合によっては含漱薬を使用することがあります。



[目の痛みや充血]

目の二次感染を予防するために抗生物質の点眼薬や炎症を抑えるために抗アレルギーの点眼薬を使うことがあります。

[身体に出来た発疹]

基本は皮膚を清潔にしつつ様子を見ますが、症状が酷くなれば痛みや痒みを抑えるための軟膏剤が処方されることがあります。

◆学校はいつまで休ませればいいのか？

症状が治まった後もウイルスの排泄は続きます。しかしその頃にはウイルスの感染力も弱くなるため、長期にわたり学校を休ませる必要はありません。学校保健法では手足口病とヘルパンギーナに関しては出席停止期間を定めておらず、それらよりも感染力の強い**プール熱**は「主要症状が消退した後、2日を経過するまで登校停止」と規定されています。



夏風邪は普段はあまり出ない高熱や身体の痛みなどで子供の体力を奪っていきます。夏場は特に注意して子供の体調を管理する必要があります。

大人は病院で処方された薬をしっかりと服用させること、そして子供の体力消耗をおさえるため、家庭内でなるべく楽になれるように環境を整えてあげることが大切です。